

看護用品の解説

ガラス製シリンジ（注射器）は洗浄・消毒を行い、繰り返し再使用していた。病棟ではシンメルブッシュで消毒していた。

看護用品にまつわるエピソード

注射器は病棟で洗って煮沸していた。注射器を使用する前には、滅菌蒸留水を吸い込み、筒先を上に向けたまま注射器の内筒を引き抜き滅菌蒸留水で洗い流した。その後筒先を上に向けたまま内筒を入れて注射針を付けて使用した。ガラス製の注射器の数が限られており、注射器の消毒は看護婦の仕事であった。針も同様に病棟で消毒していたけれども、針先が鈍ってきたら中材で研磨していた。その後ガラス製の注射器が多く入ってきたため、消毒（滅菌）は中央材料室で行うようになっていった。

糖尿病の患者には、自宅でできる注射器の消毒方法を指導した。しかしちゃんと行われているか心配なので、たまに自宅を訪問して確認していた。

（西平富美子氏，2004）

解説

日本では1963（昭和38）年にシングルユースの「プラスチック製注射筒」が発売され、現在はディスポーザブルの製品がほとんど使用されている。感染予防の観点からはディスポの使用が推奨される。しかし少し前まではガラス製のシリンジ（注射器）を洗浄・消毒して再使用されるのが普通であった。再利用の時にも感染防止が重要なので、それは看護婦の仕事であった。エピソードで語られたように、シンメルブッシュで消毒された注射器を、滅菌蒸留水で洗い流した後、濡れた手で内筒を装着することは再汚染の可能性もありうるが、よりきれいな状態で使いたいという看護婦の思いがくみ取れる。

（金城忍，2004）